

事業名	2024志津公民館まつり						
ジャンル	家庭教育	・	青少年教育	・	成人教育	・	団体育成
事業分類	实际生活に即する教育 ・ 学術及び文化に関する各種の事業 （社会教育法第20条「公民館の目的」より）						
事業意図	住民の教養の向上 ・ 健康の増進 ・ 情操の純化 （社会教育法第20条より）						
事業目的	生活文化の振興 ・ 社会福祉の増進 （社会教育法第20条より）						
日程	令和6年9月28日～29日、10月4日～6日	講師		参加費			
対象者	志津公民館利用サークル	参加者数(延べ)	770人	募集方法	(参加サークル募集)市ホームページ、館内ポスター掲示、申込書配布 (イベント周知)こうほう佐倉・市ホームページ・佐倉市LINE・館内ポスター掲示、チラシ配布・公民館だより等		
趣旨	○これまで公民館を利用していない人に向けて、公民館に足を運びきっかけをつくる。 ○サークルを探している方と既に活動しているサークルの出会いの場とする。 ○志津公民館で学んでいるサークルの活動を知ってもらい、公民館活動と地域活動の輪を広げる。						
内容	○エキシビション(展示) ・原則として志津公民館内の掲示板及び必要に応じて会議室で行う。 ・掲示板で展示する場合は10月1日(日)から31日(火)まで展示可能とする。 ・なるべく当該サークルから2～3名が会場に常駐し、見学者に対して紹介や案内の対応をする。 ○パフォーマンス(演奏・演技) ○その他(講演・体験等) ・原則として志津公民館内の会議室で行う。 ・なるべく来館者が体験できる内容での実施とする。 ・見学者等への対応は当該サークルが行う。						
工夫	令和6年度「志津公民館まつり」参加の状況を取りまとめた結果、志津公民館の大会議室の使用希望が多く調整が困難だったため、志津公民館まつりの1週間程度前に、西志津ふれあいセンターでイベントを行い、一部の参加サークルについてはイベントとして、志津公民館まつりの宣伝を兼ねて参加していただいた。また、公民館事業の活性化を図るため、若い世代に関心をもってもらえるよう工夫した。高校との連携した事業に取り組み、パンフレットの表紙イラストを佐倉西高校美術部に依頼した。						
成果	○会場設営など、基本的に主催者と参加サークルが積極的に行動するよう促した。 ○西志津ふれあいセンターを会場とするイベントに参加するサークルは、会場設営、当日受付、案内に参加した。 ○高校生の発想を活かしたまつりの雰囲気をもっとプログラムで飾り、その緻密なイラスト画で描かれたプログラムは参加サークル及び地域の方から好評であった。						
課題	エキシビション(展示)への参加サークルが少なかった。パフォーマンス(演奏・演技)サークルの参加が増えた場合、割り当て時間などの調整が困難となることから、まつり会場の工夫が求められている。						

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	・公民館が行う必要があるか。 ・市民や利用者のニーズに合っているか。 ・目的や役割が薄れていないか。 ・事業の休止・廃止した場合の影響は大きい。
優先性	A	・事業の優先度は高いか。
公平性	A	・対象者に情報は流れているか。 ・受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	A	・期待通りの成果が得られているか。 ・さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。 ・市民の満足度は高いか。
効率性	B	・事業の効率性はどうか。 ・事業運営に学習者が参画しているか。 ・他事業との統合は考えられるか。
総合評価	A	A: 適切で成果が得られている。 B: 課題あり、成果はある程度ある。 C: 課題あり、成果があまりない。 D: 成果が得られていない。
特記		

《凡例》 大きい ← A B C D → 小さい

《判定例》

A	A	A	A	A	A	A
A	A	A	A	A	A	A
A	A	A	A	A	A	A

次年度展望	②	①: 事業拡大 ④: 目的達成により終了	②: 現状規模で継続 ⑤: 統合・改善・その他	③: 事業縮小
-------	---	-------------------------	----------------------------	---------

☆公民館運営審議委員付帯意見

(A：適切で成果あり B：成果はあるが、改善の余地あり C：要改善)

委員①		<p>成果があることは間違いなく、あとは、より多くの人にあり方を知らせ、参加し、良さを実感してもらおうか。課題「3つの要因」に対する具体的な策があるとよい。</p>
総合評価	B	

委員②		<p>本提案のまつりについては、志津中にも参加の要請がありました。実際には個々の予定や部活動予定との兼ね合いで、思うように協力ができず、申し訳なく思っています。期間が長かったとはいえ、述べ700人を超える参加者が見られたことは、公民館の企画として一定の効果があったと考えます。募集・周知についても、あらゆる手立てを講じていて良いのではないのでしょうか。こういった「まつり」については、歴史を重んじる傾向もありますが、審議会でも話題になったように、今の時代・これからの時代に合ったものとうまくミックスしながら、触れ合う場になってほしいと考えます。</p>
総合評価	A	

委員③		<p>伝統のある行事が再始動した。コンパクトな運営が持続性を担保すると思う。フレと本番で2度楽しめる。地域高校との連携で活動幅が広がることを期待したい。運営方の高齢化が心配である。</p>
総合評価	A	

委員④		<p>サークル等の発表の場であり、出演者の皆さんの楽しみであり、人のつながりやサークル活動を知るきっかけとなっている。</p>
総合評価	A	

委員⑤		<p>色々な意見はあると思うが、これだけの集客出来る事業は続けてもらいたい。</p>
総合評価	A	

委員⑥		<p>公民館サークルを「まつり」という工夫で地域を盛り上げ、時に応じた形式で工夫を凝らしており準備の段階から住民が積極的に公民館に集い交流することは、更に公民館を中心とした盛り上がり期待されます。特に子どもの参加や高校との連携に発展している中での、公民館のリーダー性も評価できます。</p>
総合評価	A	

委員⑦		<p>サークルと公民館の関わり合い方がどうあるべきか、永遠の課題です。社会の動きに連動し、その答えは流動するのでしょうか。人口減少と少子化はもどに戻ることのない社会現象です。どのサークルも新人加入のない、平均年齢が毎年確実に1歳増える状況を肌で感じながら、いかにして達成感を高めるか、それぞれが格闘しているのでしょうか。コロナ禍で解散消滅したサークルが多い中、存続しているサークルにはそれ相当のエネルギーがあるのでしょうか。今後どんな形で展開していくのか、サークルを率いるみなさんにとって展望できないのが悩みかも知れません。実行委員会形式の事業運営で公民館がどんな役割を担っているのが明確に見えません。あくまでも公民館主催ですから、柱はしっかり太く支えなければなりません。資料77ページ以降に第36回以降の経過も記載して欲しかったと思います。過去の歴史に今後のヒントが潜んでいる気がします。個々のサークル活動はもとより、公民館祭全体の地域への関わりあいをさらに前面に打ち出す必要を感じます。</p>
総合評価	B	

委員⑧		人口の多い志津地区の住民の声をしっかり聴いて、公民館を利用するきっかけを巧みに作っていることは素晴らしい事です。個人だけでなく、サークル活動を有効に参加させることで、公民館が目指す趣旨が達成できることとなります。まつりという晴れの場が参加者とお客様を結び、地域の繋がりを深めることになっていると思います。参加者の年齢の幅が広い事も評価されます。
総合評価	A	

委員⑨		
総合評価	B	

委員⑩		地域に根差した活動事業として、工夫しながら運営して事が良くわかります。志津地域の方々がちょっと負担に感じながらも楽しんでいます。継続して取り組んでいただきたい。
総合評価	A	

委員⑪		公民館を利用して、活動しているサークルの活動を紹介し一般の人に、公民館を知る良いイベントだと評価します。しかし、佐倉市（公民館）が実行委員会に委託（委託契約）して実施するのではなく「志津公民館サークルの祭典」のように、サークル団体が主動し、市はこれに助成する立場（共催又は後援）で実施するのが好ましいのでは。（委託することは市の行事になりませんか）
総合評価	B	

委員⑫		歴史有る事業として、過去の開催例をみても主催者決定や多数のグループ間の調整など、事務局としては極めて労力を要する大変な行事であることはよく知られている。しかもコロナ禍後の再開事業として、内外から新たな工夫も求められていたため、今回は各発表会を見て回る事よりもどの様に公民館が本事業の“縦糸”となって参加団体をまとめたかについて、担当者からの時系列に則った事情徴収（間取り）を行った。説明からはぎめ細やかな配慮と具体的計画性に則って進められた事が解った。館員全員の努力による成功例と言えよう。同事業は日頃の各種公民館の利用団体の発表会的な意味合いから、同館の代表的事業であることに間違いはない。ただ、あくまでその運営は選ばれた主催者が中心になって行うものであり、公民館の評価事業として提示されることには再考の余地がある様に思える。
総合評価	A	

委員⑬		地域に住んでいるので、ポスター等も良く見かけました。宣伝効果も高く、皆から期待されている事業だと思います。展示の参加サークルは、市内全域から参加できるようになったら良いのではないのでしょうか。
総合評価	A	

委員⑭		エキシビジョン（展示）参加サークルが少なかったことについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動の強化：祭り開催の2～3カ月前から広報を開始し様々な媒体を活用して情報を発信する。 ・ 地域の学校や企業にも協力を依頼し、ポスター掲示やチラシ配布を依頼する。 ・ 展示内容の魅力向上：展示内容を充実させるため、各サークルに具体的な提案を行う。例えば、体験型展示やワークショップ、作品販売等
総合評価	B	

委員⑮		参加団体が多すぎて、見学が大変。サークル活動の成果が発表できる場所があり有意義だと思います。
総合評価	B	